

ごとう通信

第 203 号

平成 29 年 11 月 1 日

秋：なかったですね。何となくそういう傾向は知っていましたが、暑い、寒い、雨の繰り返しで周りでは体調を崩す方が続出。春は桜のインパクトがあるので春らしさを感じますが、ここ数年、秋らしい秋を感じていないように思います。日本の良さの一つは四季があること。三季じゃダメなんですよねえ。そしていよいよ冬。皆さん体を壊さないようにご自愛ください。

さて、先月はとてもユニークな出来事がありました。いろいろなところで講演や講義をすることがあるのですが、先月は小学生、短大生、そして高齢の方にお話しする機会があり

ました。いずれも30人から40人でしたが反応が全く異なり個人的には興味深かったです。

実はお話しする内容はほとんど同じで食べる機能と食べられなくなってもできることがあるという話です。

そう考えると食べるということはこの世代も共通して大切なことなので、本当に興味を持って聞いてもらえました。「食べる」ということが当たり前でなくなった時、慌てず、騒がず冷静に対応できるための知識をすべての方に知っていただきたいなあと思います。

ようこそ先輩！

続きになりますが、小学生への授



業に行ってきました。

これは僕だけが行ったわけではなく、新宿食支援研究会としてメンバーたちと行ってきま

した。新宿食支援研究会では、もっと多くの方に食べることの重要性や機能、そして食べられなくなっても食支援があることを知ってもらおうと考えていました。ちょうど昨年の忘年会で小学生たちに話をする機会があるといいねと話をしていたのが、新宿区社会福祉協議会の方たちのおかげでさっそく実現しました。

地元の小学校で6年生に45分授業を2回(2組分)行いました。僕が15分ほど話をしてその後、食べにくい、飲みにくいを児童たちに経験してもらい、どうしたら解決するかをみんなで話し合ってもらい発表し